

ロシア・東欧学会

The Japanese Association for Russian and East European Studies

Newsletter No. 20

2010 年度研究大会

天理大学で 10 月 23・24 日

2010 年度 (第 39 回) の研究大会は、2010 年 10 月 23 日 (土)・24 日 (日) の両日、天理大学 (奈良県天理市) で開催され、本年度も Japanese Society for Slavic and East European Studies (JSSEES) との合同大会となります。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

なお、秋の観光シーズンであること、平城遷都 1300 年記念行事が予定されていることから、奈良市周辺のホテルは混雑が予想されます。参加される会員は、宿泊先の早めの手配をお勧めします。最寄りの天理駅までは、大阪や京都から約 1 時間でアクセスできます。

1. 共通論題の企画案

2010 年度の共通論題は、「体制転換の 20 年—ロシア・東欧の軌跡」というテーマのもとで行われる。1989 年の東欧における体制変動、1991 年のソ連崩壊から今日までを「20 年」ととらえ、この時期をどのように見たらよいかについて検討することが狙いである。検討の視角としてはさまざまなものが考えられるが、ある程度議論をまとまりのあるものとするために、2 つの切り口を設定し、それぞれについてセッションを行うことにしたい。

第 1 セッション「日常の中の体制転換」では、20 年目の「いま」に焦点を当て、人々の日々の暮らしという観点から見て、体制転換が何をもたらしたかを考える。第 2 セッション「歴史の中の体制転換」では、この 20 年を“より長い歴史”の文脈に置いたとき、どのように位置づけることができるかを考える。

なお、共通論題とセッションの表題は仮のものであることをお断りしておきたい。

(小森田秋夫 大会企画委員長, 神奈川大学)

2. 自由論題報告募集 (6 月 15 日締め切り)

自由論題報告を希望される会員は、①氏名、②住所、③電話番号、④所属、⑤報告のタイトル、⑥報告要旨 (約 400 字) を、6 月 15 日 (必着) までに、学会事務局 (jarees_office@yahoo.co.jp) までメールでお知らせ下さい。なお、この報告要旨は、理事会での承認および分科会への割り振りを決定する際の参考にするためのもので、大会当日に配布するレジュメではありません。レジュメの提出要領等については、大会開催校の指示に従ってください。なお、現時点において大会プログラムの詳細は未定ですが、自由論題報告は研究大会 2 日目 (10 月 24 日) の午前中に予定されています。プログラムの詳細は決まり次第 HP に掲載するとともに、大会開催校よりご案内いたします。

また、自由論題の報告希望者が、報告可能人数を上回った場合には、①同一会員が 2 年連続で報告するのを避ける、②過去の報告回数の少ない会員を優先する、③当学会における報告として論題が適切かどうかを考慮する、という原則により理事会で調整させていただく場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

3. 若手研究者に対する研究奨励制度を検討

院生など若手研究者を取り巻く研究環境が厳しくなっていること、学会の繰越金が一定額に達したことから、現在、若手研究者に対する研究奨励制度の導入を検討しております。具体案としては、①学会誌『ロシア・東欧研究』に掲載された若手研究者の優秀な論文に対して学会奨励賞 (賞状、副賞) を授与して表彰する、②研究大会で報告を行う院生会員に対して旅費や懇親会費を補助する、などです。

次回理事会 (6 月予定) で正式決定されますと、次期研究大会から導入されることとなりますので、若手研究者の皆さんの自由論題への積極的なご応募をお待ちしております。新制度につきましては、決定され次第、HP などを通じて告知する予定です。

2009 年度共通論題の実施概要

共通論題のテーマは、「グローバル金融危機に対応するロシア・東欧」であった。ロシア・旧ソ連および中・東欧諸国の国々は、2000 年代に入り高い経済成長と低インフレという良好な経済パフォーマンスを経験してきた。しかしながら、2007 年のサブプライムローン問題、そして 2008 年のリーマン・ブラザーズの経営破綻を契機としたグローバル金融危機の発生により、この好循環は終わりを告げた。ロシアにおいては、石油・天然ガス価格の下落によりマクロ経済は一気に悪化した。他方、中・東欧諸国あるいはウクライナなどの旧ソ連諸国においても、外国銀行が資金を引き上げた結果、急速な信用収縮が起き、いくつかの国では経済が破綻寸前となり、国際通貨基金 (IMF) からの融資によりなんとか息をつないでいる。

このようにアメリカから発したグローバル金融危機がロシア、中東欧諸国に深刻な影響を与えている最中、第 38 回ロシア・東欧学会年次大会は、ロシア、中東欧諸国においてなぜ経済危機が深刻化したのか、そして経済危機が政治、社会、文化にどのような影響を与えているかを分析するため、共通論題のテーマとして「グローバル金融危機に対応するロシア・東欧」を設定し、以下の報告に基づいて報告、討論を行った。

第 1 報告 (経済) 報告：上垣彰 (西南学院大学)

討論：溝端佐登史 (京都大学)

第 2 報告 (政治) 報告：兵頭慎治 (防衛研究所)

討論：下斗米伸夫 (法政大学)

第 3 報告 (社会) 報告：志摩園子 (昭和女子大学)

討論：蓮見雄 (立正大学)

第 4 報告 (文化) 報告：村田真一 (上智大学)

討論：ヨコタ村上孝之 (大阪大学)

上垣報告では、第 1 に、アメリカ発の危機がどのような経路で、なにをきっかけとしてロシアにたどり着いたのか、そして、ロシアに到達した危機がなぜこれほどまでに实体经济に影響を及ぼしたのかが分析されている。その結果、ロシアでは、サブプライム危機の波及による資本流出とともに、石油価格下落による「交易条件効果」減少が GDP の下落をもたらしたこと、その根源には、ロシア経済が、モノカルチャー経済から脱却できず、他方で特殊な金融構造 (対外的には自由だが、国内金融構造はプリミティヴ) をもつこ

とが述べられた。

兵頭報告では、まず、プーチン・メドヴェージェフのタンデム体制は、国際原油価格の高騰により増大した国家資源の配分を通じて権力バランスの安定化を図ることができたが、金融・経済危機によりこの前提条件が失われてしまったことが述べられる。その結果、内政面では、プーチンが「ピカリョヴォ裁定」に代表される「手動統治」により危機からの脱出を図っていること、外交面では、軍事優先ではなく、経済・社会分野における国家発展を通じて国際社会で影響力を発揮し、安全保障を確保していくという基本姿勢が、経済危機により再確認されたことが主張された。

志摩報告は、中東欧諸国の中でグローバル金融危機により最も深刻な影響を受けているラトヴィアを題材として、社会構造がどのように変化しているかを分析した。世論調査を利用しながら、ラトヴィアがロシアへの依存から脱却するため西欧・北欧諸国との経済関係にあまりに急速に接近したことが金融危機の影響を深刻化させた原因の一つであるとの結論が主張されている。また、中東欧諸国においてなぜ経済危機が深刻化したかについては、蓮見会員が、志摩報告への討論の中で詳細な分析を行った。

村田報告では、1990 年代から今日に至るまで、ロシア文学が、手軽な癒しを求める世相の変化によって、そして理想やアイデアではなく、プロットの斬新さで読ませる小説の氾濫を可能としたパソコンやインターネットの発展に伴って変容してきたことが丁寧な分析で示された。

以上の報告および討論により、現下のグローバル金融危機は、ロシア、中東欧諸国の経済状況はもちろんのこと、政治、社会状況に大きな影響を与えていることが示された。ロシアでも、経済危機によりタンデム政権への支持率は低下しており、2012 年に二人の指導者のどちらが大統領に立候補するかは、危機をいかに克服するかにかかっている。また中東欧諸国では、経済危機は中東欧諸国の政権への信頼を下げただけでなく、西欧あるいは EU への信頼を大きく引き下げている。グローバル金融危機は終息したわけではなく、二番底の懸念もまだ残されている。ロシア、中東欧諸国におけるこの 20 年間の政治・経済・社会変動の中で、グローバル金融危機がどのような痕跡を残しているのか、さらなる注視が必要である。

(吉井昌彦 2009 年度大会企画委員長, 神戸大学)

新役員選出される

1. 選挙による新理事の選出

2009 年度は理事改選の年にあたり、郵便投票による選挙の結果、辞退者を除き、次の 19 名の会員が理事に選出されました (敬称略, 五十音順)。

理事：家本博一 (名古屋学院大学), 伊東孝之 (早稲田大学), 岩下明裕 (北海道大学), 岩田賢司 (広島大学), 上垣彰 (西南学院大学), 上野俊彦 (上智大学), 宇多文雄 (上智大学), 宇山智彦 (北海道大学), 亀山郁夫 (東京外国語大学), 柴宜弘 (東京大学), 下斗米伸夫 (法政大学), 田畑伸一郎 (北海道大学), 沼野充義 (東京大学), 袴田茂樹 (青山学院大学), 羽場久美子 (青山学院大学), 林忠行 (北海道大学), 藤本和貴夫 (大阪経済法科大学), 溝端佐登史 (京都大学), 横手慎二 (慶應義塾大学)

2. 当選者会合における理事, 会計監事の選出

10 月 16 日 (金), 秋田大学で理事選挙当選者による会合が開催され, 規定に従い, 以下の 20 名の理事および会計監事が選出されました (敬称略, 五十音順)。なお, 退会者により, 理事 1 名が欠員となったため, 理事の総数は 39 名となっています。

理事：五十嵐徳子 (天理大学), 小澤治子 (新潟国際情報大学), 香川敏幸 (慶應義塾大学), 木村崇, 小森田秋夫 (神奈川大学), 斎藤元秀 (杏林大学), 左治木吾郎 (東京国際大学), 志摩園子 (昭和女子大学), 田中宏 (立命館大学), 角田安正 (防衛大学校), 富山栄子 (事業創造大学院大学), 中村裕 (秋田大学), 兵頭慎治 (防衛研究所), 松井弘明 (大東文化大学), 松里公孝 (北海道大学), 宮本勝浩 (関西大学), 六鹿茂夫 (静岡県立大学), 望月哲男 (北海道大学), 湯浅剛 (防衛研究所), 吉井昌彦 (神戸大学)

会計幹事：岩田昌征, 皆川修吾 (愛知淑徳大学)

3. 代表理事以下, 新執行部の選出

選出された新理事による理事会が 10 月 17 日 (土) に秋田大学で開かれ, 理事会における互選により, 以下の通り, 代表理事, 副代表理事, 会誌編集委員長, 事務局長が選出されるとともに, 同日開かれた総会において承認されました (敬称略)。新執行部の任期は, 2012 年度までの 3 年間となります。

代表理事	上野 俊彦 (上智大学)
副代表理事	溝端 佐登史 (京都大学)
会誌編集委員長	吉井 昌彦 (神戸大学)
事務局長	兵頭 慎治 (防衛研究所)

2011 年度研究大会開催校 東京国際大学に決まる

2010 年 2 月 20 日 (土) に上智大学で開かれた理事会において, 2011 年度研究大会を左治木吾郎理事の所属する東京国際大学 (埼玉県川越市) で実施することが決まりました。

最近の理事会議事録より

2010 年 2 月 20 日 (土) に上智大学で, 新理事の参加による 2009 年度第 3 回目の理事会が開かれ, 以下のような報告および審議が行われました。

1. 対外関係担当者および各種委員の選出

- (1) 日本ロシア・東欧研究連絡協議会 (JCREES) の担当に袴田茂樹理事 (青山学院大学) が再任された。
- (2) 日本学術会議連携会員である袴田茂樹理事及び羽場久美子理事 (青山学院大学) が同会議の担当に, 羽場理事が地域研究連絡協議会の担当に再任された。
- (4) 国際交流委員 (ICCEES 日本代表) に松里公孝理事 (北海道大学) が再任された。
- (5) 会誌編集委員長に吉井昌彦 (神戸大学), 副委員長に角田安正 (防衛大学校) の各理事が選出され, 編集委員に五十嵐徳子 (天理大学) 理事, 安達祐子 (上智大学), 大中真 (桜美林大学), 杉浦史和 (帝京大学), 中村唯史 (山形大学), 4 月より大串敦 (早稲田大学) の各会員が選出された。
- (6) 会誌の電子ジャーナル化に伴い, HP 等の対外広報活動のさらなる充実のため広報委員会の新設が決まり, 広報委員に富山栄子理事 (事業創造大学院大学) が選出された。
- (7) 1 名欠員している理事の補充は, 当面, 見合わせる事が決まった。

2. 会誌編集委員会報告（吉井編集委員長）

(1) 会誌第 35 号には、共通論題 4 本、自由論題 3 本、計 7 本の論文が掲載される予定で、順調に編集作業が進んでいることが報告された。

(2) 会誌の電子アーカイブ化に関連して、①独立行政法人科学技術振興機構（JST）が、創刊号から第 34 号までの会誌のアーカイブ化の作業を進めており、学会 HP からアーカイブにアクセスすることが可能となること、②第 35 号については、電子ジャーナル化についての予告なしに投稿募集を実施したので、各執筆者に対して電子ジャーナル化に伴う論文の公開について、個別に許諾を求める必要があること、③第 36 号以降は、電子ジャーナル化を明示した上で投稿を募集する必要があるため、次回理事会で会誌投稿規程の改正を審議する予定であることが報告された。

(3) 会誌最新号の公開時期については、会誌の受領が会費未納会員による会費納入のインセンティブとなっていることや、会費納入者にのみアクセスパスワードを配布することに手間がかかるなどの理由から、会誌発行から一定期間を経てから全面公開するとの方針が承認された。

3. 2009 年度研究大会の会計報告

中村裕大会実行委員長（秋田大学）より、関係各位の協力により研究大会が成功裏に終わったこと、総支出 360,469 円のうち、当学会の負担分が 283,043 円、JSSEES の負担分が 77,426 円であること、懇親会費の残金 2 万円を学会に寄付したことが報告された。

4. 会務報告（兵頭事務局長）

(1) 2 月 10 日現在の会費納入率について、一般会員が 68%、シニア会員が 96%、院生会員が 62%、法人会員が 100%であることが報告された。会費未納者に対しては、年度末に督促を行うことにより、会費納入率はさらに上昇するとの見通しが報告された。

(2) 会員名簿の改定について、会員登録情報を会員

に提示し、修正や非開示項目等を確認した上で、2010 年度中に新名簿を発行することが報告された。

(3) 新入会者 [下表参照]、申請による退会者 4 名、3 ヶ年会費未納による退会者 18 名が承認された。

(4) 2009 年度決算については黒字となる見通しであること、2010 年度予算案についても黒字予算とし、HP の管理費及びニューズレターの発行費などを新たに広報費として計上することが報告された [次ページ参照]。繰越金を財源とする院生等の学会活動に対する助成を検討することが承認された。

5. 2010 年度研究大会について

(1) 五十嵐徳子大会実行委員長（天理大学）より、会場確保などの準備が順調に進んでいること、奈良市内のホテル等の混雑が予想されるため、宿泊先を早期に予約する必要があることが報告された。

(2) 研究大会は JSSEES との合同大会で行い、共通論題テーマは「体制転換の 20 年—ロシア・東欧の軌跡（仮題）」とすることが承認された。

(3) 大会企画委員に、小森田秋夫（委員長、神奈川大学）、木村崇、志摩園子（昭和女子大学）、田中宏（立命館大学）、林忠行（北海道大学、五十嵐徳子（天理大学）、兵頭慎治（防衛研究所）の各理事が選出され、企画案の検討が一任された。

6. 2011 年度研究大会について

2011 年度研究大会の開催校について、上野代表理事より、左治木吾郎理事の所属する東京国際大学（埼玉県川越市）にお願いしたいとの提案があり、左治木吾郎理事の同意の上で、2011 年度研究大会開催校を東京国際大学とすることが承認された。

7. その他

研究大会で報告する院生に対する財政支援など、若手研究者に対する助成制度について、事務局で原案を作成し、次回理事会で審議することが決定された。

新入会員（2009 年 10 月及び 2010 年 2 月理事会承認分、受付順、敬称略）

氏名	所属	専攻	推薦者	
小泉 悠	(財) 未来工学研究所	ロシアの軍事政策・政軍関係	河東哲夫	兵頭慎治
富樫耕介	東京大学大学院博士後期課程	紛争研究、コーカサス地域研究	塩川伸明	北川誠一
神谷英邦	大阪大学大学院博士前期課程修了	プーチン政権の実力	藤本和貴夫	五十嵐徳子

2009年度決算(2010年4月1日現在)及び2010年度予算案

収入の部				
	2009年度予算	2009年度決算	2010年度予算案	
前年度繰越金	5,660,010	5,660,010	6,262,125	
会費 (注1)	一般会員	2,820,000	2,812,000	2,680,000
	シニア会員(注2)			110,000
	院生会員	210,000	168,000	165,000
	法人会員	60,000	80,000	80,000
	維持会費	20,000	15,000	15,000
寄付	20,000	41,312	40,000	
利息	1,500	475	500	
雑収入(学会誌広告掲載料等)	80,000	160,000	130,000	
当年度の収入合計	3,211,500	3,276,787	3,190,500	
収入総計	8,871,510	8,936,797	9,452,625	
支出の部				
	2009年度予算	2009年度決算	2010年度予算案	
研究大会開催費	300,000	283,043	300,000	
会誌発行費	1,200,000	893,732	900,000	
ニューズレター発行費	100,000	68,675		
広報費(注3)			200,000	
事業費(注4)	40,000	35,000	40,000	
事務局費	400,000	399,520	300,000	
事務用品・コピー代(注5)	50,000	48,203		
会議補助費	700,000	630,536	700,000	
選挙管理費	100,000	81,784	0	
会員名簿作成費	100,000	0	150,000	
送料・通信費	200,000	115,975	150,000	
郵便振替料金・銀行振込手数料	40,000	39,372	50,000	
予備費(注6)	500,000	78,680	400,000	
当年度の支出合計	3,730,000	2,674,672	3,190,000	
若手研究者奨励基金			1,000,000	
次年度への繰越金	5,141,510	6,262,125	5,262,625	
支出総計	8,871,510	8,936,797	9,452,625	

注1 2010年度予算案は、正会員83%、シニア会員90%、院生会員70%、法人会員100%の納入率で試算。

注2 2009年度予算・決算の一般会員にはシニア会員を含む。2010年度予算案よりシニア会員の項目を独立。

注3 2010年度予算案より新設(ニューズレター発行費、ホームページ管理費、電子アーカイブ化関連費用)。

注4 日本ロシア・東欧研究連絡協議会(JCREES)及び日本学術会議地域研究学会連絡協議会の分担金。

注5 2010年度予算案より事務局費に統合。

注6 2009年度決算は、理事会開催時の施設使用料、ホームページ管理費。

学術会議地域連絡協議会 「ニューズレター」より

1. ロシア・東欧学会の2009年の活動

ロシア・東欧学会は1975年、慶應義塾大学にて当時の気賀健三先生を中心に、『ソ連・東欧学会』として、当該地域の経済・政治をより客観的に分析するために設立された。その後の35年にわたる経緯は、2009年の学会誌『ロシア・東欧研究』に、1989-99年の代表理事を務められた川端香男里氏（東京大学名誉教授）により回想されている。設立当初の気賀・加藤寛両代表理事の御苦労や、ロシア研究が、当時の国際情勢や日本政治経済のあり方に直結するマターであるだけに、近くて遠いロシアおよび東欧をどう扱うかは多くの紆余曲折の上に成り立ってきた。その中でまさに地域研究の王道として、経済・政治・文化・文学の多様な側面からソ連・ロシア・東欧を多面的・客観的に検討しようとしてきた学会の先駆者たち、現在の重鎮・中堅・若手研究者の営々たる努力の意義は極めて称賛されるべきものがある。

2009年の学会誌には、35年の理事会の軌跡と特集のバックナンバーが同様におさめられている。ちょうどこの35年の成果を区切りとして、学術会議より電子アーカイブ化のお話があり、理事会で議論の未承認されて、今春よりバックナンバーが閲覧可能になる。欠けていた貴重なナンバーを寄贈して下さった理事の方々、図書館での検索やコピーをして下さった理事の方々に心より感謝を申し上げたい。

この35年間で、ソ連・東欧学会＝ロシア・東欧学会は、名称変更も含めて変容があり、その数は420人とロシア関係の学会の中でもロシア文学会につぐ最大規模の学会となった。そうした中で、この5年間は、関西・京都大学を中心とし日本唯一ロシア語・英語で学会誌を世界に向けて刊行するJSSEESとの合同大会を開催し大きな成果を収めてきた。

2学会合同大会の成果を踏まえ、さらに2008年の10月には、ロシア・東欧学会の呼びかけにより、ロシア史研究会、JSSEES、ロシア文学会の4学会が共同して、歴史的な合同大会が名古屋で開催された。全国東西から集まることができ名古屋駅から近いという交通の便の良さも手伝って、全国から文学・政治・社会・国際関係などの研究者、メディアや市民の方々

多数が集い、大盛況となった。今後も、オリンピックのように、4年に1度の祭典？として、無理のない形で共同大会を継続していくことが、4団体によって確認された。これも大会開催校として多大なご尽力を戴いた、名古屋学院大学の家本博一先生、愛知県立大学の加藤史朗先生には、心より感謝申し上げます。

昨年2009年10月17日・18日には、再びJSSEESとの合同研究大会に戻り、東と西で交互に開催というルールにのっとり、錦秋の秋田大学で開催された。「共通論題」のテーマは「グローバル金融危機に対応するロシア・東欧」であり、経済、政治、社会、文化のそれぞれの領域から、計8人の気鋭の報告者と討論者が、金融危機以降のロシア・東欧地域のドラスティックな変容について鋭い論戦を戦わせた。「自由論題」では、ロシア・東欧地域の政治、経済、安全保障、文化・文学の各分野に関して4つの分科会が開かれ、若手研究者、PhD取得者を含む14本の優れた報告がおこなわれ論議がなされた。夜には切りたんぼや地鶏の煮込み、秋田の銘酒でさらに論戦は盛り上がった。ロシア・東欧地域を多面的かつ学際的に研究するという本学会の本領を発揮し、友好的かつ実りある研究大会となった。二日目は、JSSEESとの合同大会として共同シンポジウム、「スラヴ世界における西と東」と題する合同シンポジウムが持たれた。こちらは、歴史・文学・文化を基礎とし、ロシア・東欧のソフト・パワー分析で、ハードに偏りがちなロシア・東欧学会と共同することで、双方からの深い考察ができることが、両学会合同大会の最大の成果となっている。今後も、ロシア・東欧学会としては、ロシア語の研究を日本から発信する使命を持つJSSEESとの協力関係を強化することで、切磋琢磨し相互に深化していくことを願っている。

2009年はまた、理事会改選の年であった。2009年1月に選挙管理委員会が設けられ、6月の投票結果を経て、秋田大学における理事会及び総会において、新体制40名の理事会が設立された。新執行部は上野俊彦代表理事（上智大学）、溝端佐登史副代表理事（京都大学）、吉井昌彦学会誌編集委員長（神戸大学）、兵頭慎治事務局長（防衛研究所）が選ばれ、多に若返って、学会活動のさらなる発展と強化が目指されることとなった。事務局は上智大学に設置された。新体制発足により、最初の理事会は2010年2月に開催され、2010年度の研究大会や学会誌の編集、事務局活動な

どについて審議される予定となる。

若手研究者のエネルギーも取り込みながら、今後も、政治・経済・国際関係・文学・文化・歴史など、広範な学際的な研究として、近くて遠い地域、ロシア・東欧を分析していき、その成果を社会に発信していく母体となっていきたいと念じる。

ロシア・東欧学会の活動については、日本語・英語・ロシア語からなる、上野俊彦代表理事（前 HP 担当理事）とミハイロヴァ・ユリア会員（広島市立大学）らの手になる美しい HP がある。ぜひ訪れていただきたい。また学術研究論文については、2010 年度春からウェブ上で閲覧可能となる予定の学会誌『ロシア・東欧研究』、学会の活動については「ロシア・東欧学会ニューズレター」を参照されたい。研究大会や学会体制、各種ご案内も、ロシア・東欧学会の HP に記載されている。御関心のおありの方は、研究者にとどまらず、メディア、官庁、一般の方々まで、是非ご入会ください。次回の大会は、2010 年 10 月、関西、天理大学となります。

（羽場久美子 学術会議担当理事，青山学院大学）

2. スラブ・ユーラシア研究における

北米学会 (AAASS) と世界学会 (ICCEES)

ディシプリン系の学問では考えられないことだろうが、地域研究では北米の巨大会が世界学会の役割の肩代わりをしている場合がある。東アジア（中国）研究、中東研究などがそうである。北米は大学が大衆化している分だけ研究者数も多く、自分の研究対象にエスニックな根を持つ研究者が多い。だから一般的には地域研究に有利な土壌と言えるが、それが世界学会を肩代わりしてしまうと、多様な国民的研究伝統が交錯する場としての本来の知的世界市場は生まれにくい。そこには日本人研究者が活躍する場もないだろう。

スラブ・ユーラシア研究は、北米学会 AAASS と世界学会 ICCEES が並存するので恵まれているのは事実だが、順風満帆というわけではない。まず設立年として AAASS が 1948 年、ICCEES が 1974 年であり、北米学会の方が 4 半世紀先輩である。会員数も AAASS は 3000 人を擁し、2 番目の日本のスラブ学会 (JCRES) の 1000 人を大きく引き離している。1985 年のワシントン DC 世界大会を最後として、ICCEES の世界大会開催地を欧州が独占しているため、アメリカの研究者は ICCEES のことを名前さえ知らないが、

欧州の田舎学会だと思っている。したがって世界大会への参加数も、経済的に恵まれているわけではないロシアの研究者がアメリカの研究者を追い抜きそうな趨勢である。

近年の東アジアのスラブ・ユーラシア研究者は、同分野の東アジア学会を毎年開催するなど地域学会建設に努めているし、北米と違って、あくまで ICCEES の地域コミュニティとして活動しているので、欧州に次ぐ ICCEES の拠点（龍児？）になりつつある。これには内容的な含意もあって、欧米中心でないスラブ・ユーラシア研究の観点を確立するということが、冷戦終了 20 年を経た ICCEES の切迫した課題なのである。2015 年の ICCEES 世界大会は千葉幕張で開催されそうな趨勢だが、これをきっかけとして東アジアのスラブ研究者が、冷え込んでいる世界学会と北米学会の仲をとりもつことができれば幸いである。

なお、AAASS の年次大会は 3 泊 4 日続きパネル数は 250 くらい、ICCEES の世界大会は 5 年に 1 回開催され、6 日間で約 400 のパネルが組織される。

（松里公孝 国際交流担当理事，北海道大学）

『ロシア・東欧研究』 投稿原稿募集

論文、研究ノート、書評の原稿を募集しています。2010 年度の応募締め切りは 9 月 15 日、原稿提出期限は 11 月末日です。研究大会における自由論題報告者のみならず、多くの会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。執筆要領については、学会 HP または学会誌巻末の「投稿規程・執筆要領」をご覧ください。また、研究ノートや書評も募集しておりますので、奮ってご応募くださいますようお願いいたします。なお、学会誌のバックナンバーを実費で配布しております。希望される方は、事務局までお問い合わせください。

投稿申込・原稿送付先

ロシア・東欧学会 会誌編集委員会

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 2-1

神戸大学大学院経済学研究科 吉井研究室 気付

TEL (078) 803-6844/FAX (078) 803-7293

e-mail : yoshii@econ.kobe-u.ac.jp

事務局からのお知らせ

1. 学会誌の電子アーカイブ化始まる

昨秋、(独) 科学技術振興機構 (JST) との間で事業締結を行い、学会誌の全てのバックナンバーが、同機構のアーカイブ・サイト Journal@rchive で閲覧可能となります。学会HPからもアクセス可能です。

す。 <http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/>

第1弾として、3月16日に創刊号から第17号(1972年～1988年)までが公開され、今後も順次拡充されます。将来的には、グーグル (Google) や国立情報学研究所 (NII) の論文情報ナビゲータなどの検索結果から直接リンクされる予定です。

これにより、紙媒体でのみ保存されていた学会誌が電子保存されるとともに、掲載論文が学会員以外の多くの目に触れることとなります。これを受けて、広報委員会を新設して、HP など学会の对外広報のあり方を検討することになりました。本件につき、何かご意見などがございましたら、事務局までお寄せください。

2. 2010年度年会費納入のお願い

2010年度年会費は、以下の通りとなっておりますので、お早目の納入をお願い申し上げます。下記会費に加えて、ご寄付は金額に関わらずお受けしております。

正会費	10,000円(個人会員)
法人会費	20,000円(団体会員)
シニア会費	5,000円(70歳以上で退職された会員)
院生会費	5,000円(院生及びこれに準じる会員)
院生特別会費	4,000円(JSSEES, ロシア史研究会, ロシア文学会に加入する院生会員)

送付しました払込用紙を使用して郵便局でお支払いの場合、払込手数料は学会負担となります。払込票受付型ATMでお支払いいただきますと、窓口払いに比べて、学会が負担する手数料が120円から80円に減額となりますので、経費削減にご協力いただけますと幸いです。受領証は、払込を証明するものですので、保管してくださいませようお願いします。

ゆうちょ銀行以外の他行(海外を含む)からご送金いただくことも可能です。その場合は、送金口座番号が異なりますのでご注意ください(巻末参照)。その際は、誠に恐れ入りますが、手数料をご負担ください。

前年度までの年会費未払いの方は、誠に恐縮ですが、

合わせてお支払い下さい。規定により、1年以上未納の方には学会誌等の送付を中断し、3年未納となりますと理事会の承認を経て退会扱いとさせていただきますしております。ご不明の点がございましたら、事務局までメールにてお問い合わせ下さい。

3. 会員名簿作成へのご協力をお願い

現在、会員名簿作成の準備を進めております。会員登録情報(住所、電話番号、所属、専攻、メール)の修正、非掲載希望項目がございましたら、払込用紙の通信欄、FAX、メール、郵送などで、事務局までご連絡ください。住所や所属が変更されましたら、速やかにお知らせくださいますようお願いいたします。

4. 院生監事の導入を検討

院生間のネットワークおよび学会と院生間のコミュニケーションの強化を図るため、院生監事の導入を検討しております。メーリング・リストや掲示板などを通じて研究情報の共有を図ることや、研究大会など学会運営の補助をお願いする予定です。研究大会開催校までの旅費の支給も検討しておりますので、関心のある院生の方は、事務局までお問い合わせください。

《編集後記》

学会事務局という大役を仰せつかりました。業務を引き継いだばかりで、至らぬ点もあろうかと存じますが、何卒、よろしく願い申し上げます。(兵頭)

ロシア・東欧学会ニューズレター 第20号(2010年4月発行)

《発行》ロシア・東欧学会事務局 兵頭慎治

住所: 〒102-8554

東京都千代田区紀尾井町7-1

上智大学外国語学部ロシア語学科 気付

FAX: 03-3238-3087

E-mail: jarees_office@yahoo.co.jp

<http://www.soc.nii.ac.jp/roto/index.html>

ゆうちょ銀行(加入者名: ロシア・東欧学会)

郵便局での払込: 00150-8-177731

他行からの送金: 〇一九(019)店

当座預金 0177731